組立説明図				部品(パーツ)	
JISQ1011:2009				JISA5308:2009	
工程名	管理項目	品質特性	管理方法及び検査方法	品質基準	検査基準
2. 材料計量	2' a) 計量方法 b) 計量精度(動荷重) c) 計量および単位量の記録	−	2'''動荷重 a) 計量方法([2]) c) 計量印字記録を有しない場合は，計量器の計量読取記録による。	8.2 材料の計量 8.2.1 計量方法 計量方法は，次による。 a) セメント，骨材，水及び混和材料は，それぞれ別々の計量器によって計量しなければならない。 なお，水は，あらかじめ計量してある混和剤と一緒に累加して計量してもよい。 b) セメント，骨材及び混和材の計量は，質量による。混和材は，購入者の承認があれば，袋の数で量ってもよい。ただし，1袋未満のものを用いる場合には，必ず質量で計量しなければならない。 c) 水及び混和剤の計量は，質量又は容積による。 8.2.2 計量誤差 計量誤差は，次による。 a) セメント，骨材，水及び混和材料の計量誤差は，表5による。 表5－材料計量の誤差 単位 % 材料の種類 / 1回計量分量の計量誤差 セメント / ±1 骨材 / ±3 水 / ±1 混和材 a) / ±2 混和剤 / ±3 注 a) 高炉スラグ微粉末の計量誤差は，1回計量分量に対し±1 %とする。 b) 計量誤差の計算は，次の式によって行い，四捨五入によって整数に丸める。 $m_0 = \frac{m_2 - m_1}{m_1} \times 100$ ここに，m_0： 計量誤差（%） m_1： 目標とする1回計量分量 m_2： 量りとられた計量値 12.2 レディーミクストコンクリート納入書 〈中略〉ただし，複数バッチで運搬車1台分のコンクリートを練り混ぜる場合は，各バッチの計量値を平均して算出した単位量を提出する。 また，計量に関する記録は，所定の期間保管する。	

注([2]) 1) 骨材の場合には，細骨材，粗骨材又は粒度の異なる骨材を，また，回収水を使用する場合には，区分の異なる水を累加計量してもよい。
2) 動荷重は，1回以上/月実施する。
3) 検査方法は，任意の連続した5バッチ以上について，各計量器別，材料別に実施する。
4) 累加計量の場合の合否判定は，次による。
4.1) 同一種類の異なる粒度の細骨材の累加計量及び異種類の細骨材の累加計量並びに同一種類の粗骨材の粒度の異なる粗骨材の累加計量及び異種類の粗骨材の累加計量の場合には，“最初の材料の計量値”と“次に累加した材料との合計値” についてそれぞれ合否の判定を行う。
4.2) 細骨材に粗骨材(又は粗骨材に細骨材)を累加する場合には，“細骨材(又は粗骨材)の計量値”と“粗骨材(又は細骨材)の計量値”について，それぞれの合否判定を行う。
4.3) 水の累加計量においては“最初の材料の計量値を目視で確認し，次に累加した材料との合計値”について合否判定を行う。